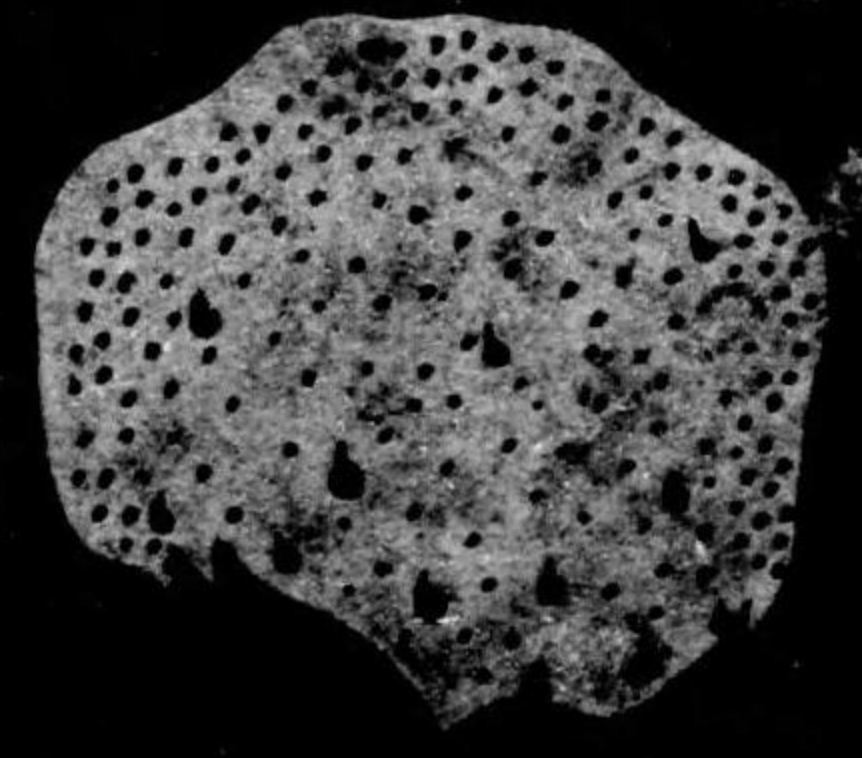
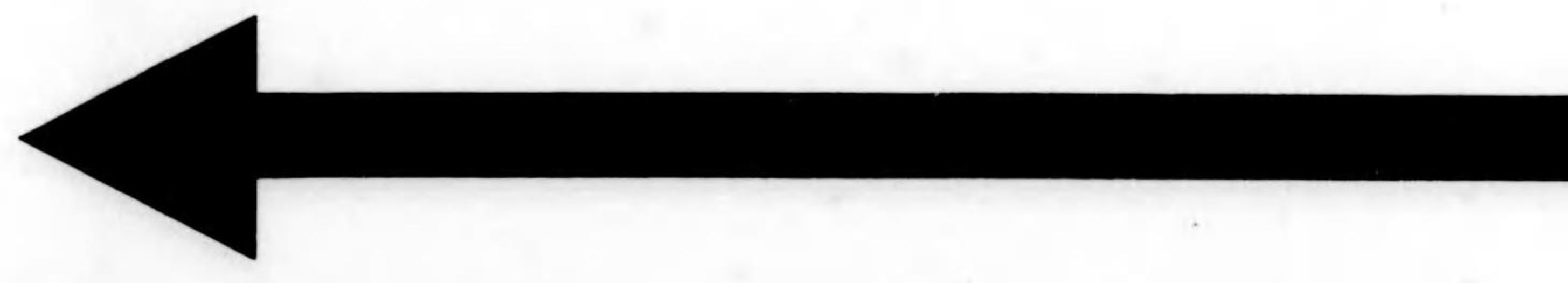


特100  
80



始





一九二九年——一九二九年

# 棉花相場便覽

33106  
80



國際通信社經濟部編



## 發行の辭

國際通信社の經濟部は國際的重要商品たる棉花に關する各種の世界的報道を、最も正確に又最も機敏に通信して日々當業者の參考に供して居る。

棉花は七月末を以てシーズンの終りとし八月一日から復た新しいシーズンに入るのである。此の變り目に際し當社入電の中から過去十二ヶ月間の相場や主な情報や其の他諸統計を摘録して例年の通り此の小冊子を發行する事とした。

大正十二年八月

## 國際通信社經濟部

持100-80

### 棉電の内容

(相場) || 紐育、孟買及びリヴァプールの三大市場並にアレキサンドリアに於ける日々の棉花相場。

(報情) || 前記三大市場より毎週一回其週の形勢を詳しく打電させて居る。紐育の如きは毎日其日の主なる材料を通信して來る。

(統計) || 毎週の米棉集散高、毎月の消費高、輸出高並に政府及び民間發表の收穫豫想、作柄報告、繰上高等

(布絲綿) || 上海、孟買、マンチエスター、紐育の綿絲布相場及び市況、リヴァプールの綿絲布輸出高等。

(其他) || 銀塊、株式、金融、一般財界の大勢等荷くも綿業者に參考となるものは出来る限り網羅してある。



### 通信の種類

國際通信社の經濟部は單に棉花の通信を行つて居るのみではない。其の外左の如き通信をも取扱つて居る。

- 爲替
- 生絲
- 金物
- 船舶
- 砂糖
- 小麦
- 羊毛
- 護謨
- 肥料
- 油脂

尤も別に一般的經濟種も澤山打電して來るのである。

右の各通信は世界最大の通信社たるロイテル電報社の倫敦本社及び世界の各地に在る同社の支社から打電して來るのである。其の通信の權威ある事は既に我國實業家諸氏の十分に認めてゐる所であつて日本の有力な銀行、會社商店で右電報中の孰れかを購讀して居らぬ所は先づ無いと云つて宜しい。

### 本社の事業

國際通信社は經濟通信を取扱ふ外尙世界の政治的社會的凡ゆる重要な出來事は總て之を報道して居る。即ち我國の新聞紙上に「國際」とある外國電報は總て日々當社へ入電したものを更に當社から新聞社に供給したものである我國の新聞紙に掲載される外國電報の入割以上は當社の電報である。

國際通信社は外國の出來事を日本に通信すること共に日本の時事問題をも外國に打電して居る。

國際通信社は斯様な世界的通信事業を經營する爲めに濫澤子爵の斡旋に依つて大正三年に創立されたもので我國一流の銀行や會社から全部出資した合資會社であつたが其後組織を變更して株式會社にしたのである。



米棉ミッドリング

印棉

十月限 五月限

七八月渡

卅一日(木)	三十日(水)	廿九日(火)	廿八日(月)	廿六日(土)	廿五日(金)	廿四日(木)	廿三日(水)	廿二日(火)	廿一日(月)	十九日(土)	十八日(金)	十七日(木)	十六日(水)	十五日(火)	十四日(月)	十三日(土)	十二日(金)	十一日(木)	十日(水)	九日(火)	八日(月)	七日(土)	六日(金)	五日(木)	四日(水)	三日(火)	二日(月)	一日(土)
三・三三	三・三三	三・三六	三・三六	三・三六	三・三六	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三
三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三	三・三三
四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇	四九〇

八月中の米棉情報

自一日至五日 今週の紐育棉花相場は  
 下落した。八月一日に発表された農務省の作柄予想は七割四分八厘、第二回收穫も意外とす程悪かつたが、實需も何人も意外とす程悪かつた。之は鐵道や炭礦労働者のストライキが片付かない。又、歐洲の政局が不安な爲めである。古棉統計家の調査によると八月一日の古棉相場は全世界を通じて四百九十萬担、差當り不足はないと云ふ。四七日は至十二日、今週は中頃から上に出した。之は相場が二十仙に下つた。之は至急金の上を買った。爲である。併し紡績會社は相場の餘りから強ひて買ふ事をして左程恐れない。爲である。足る。自十四日、十九日、今週は漸騰歩調を辿り、十七日、十九日、今週は漸騰歩調を及ぶ。外國の紡績會社が定期市場で先物を買ひ出した。爲である。農務省の豫想を柄は九月の発表に當る。農務省の豫想を内務省の発表に當る。農務省の豫想を八千俵で、古棉持越は二百八十二萬担、破りの勢ひである。今週は追々下つた。自廿一日、廿六日、今週は追々下つた。相場が三仙になる。買物が引込で、反對に緊賣が出て来る。爲である。キヤス州に於ては既に新棉が盛んに出て来た。農家は、大急ぎで賣つて居る。買手は、日本筋及び李浦筋である。



一九二三年九月

米棉ミッドリング

印棉

十月限 五月限 四五月渡

一日(金)	二・九四	三・〇五	四・四四留比
二日(土)	休	休	四・四六
三日(日)	休	休	四・四八
四日(月)	休	休	四・五〇
五日(火)	三・二〇	三・三〇	四・五二
六日(水)	三・〇六	三・一六	四・五四
七日(木)	三・〇〇	三・一〇	四・五五
八日(金)	三・〇三	三・一三	四・五七
九日(土)	三・〇七	三・一七	四・五九
十日(日)	三・一〇	三・二〇	四・六一
十一日(月)	三・一三	三・二三	四・六二
十二日(火)	三・一七	三・二七	四・六四
十三日(水)	三・二〇	三・三〇	四・六六
十四日(木)	三・二四	三・三四	四・六八
十五日(金)	三・二七	三・三七	四・七〇
十六日(土)	三・三〇	三・四〇	四・七二
十七日(日)	三・三三	三・四三	四・七四
十八日(月)	三・三六	三・四六	四・七六
十九日(火)	三・三九	三・四九	四・七八
二十日(水)	三・四二	三・五二	四・八〇
二十一日(木)	三・四五	三・五五	四・八二
二十二日(金)	三・四八	三・五八	四・八四
二十三日(土)	三・五一	三・六一	四・八六
二十四日(日)	三・五四	三・六四	四・八八
二十五日(月)	三・五七	三・六七	四・九〇
二十六日(火)	三・六〇	三・七〇	四・九二
二十七日(水)	三・六三	三・七三	四・九四
二十八日(木)	三・六六	三・七六	四・九六
二十九日(金)	三・六九	三・七九	四・九八
三十日(土)	三・七二	三八〇	五・〇〇

九月中の米棉情報

自四日至九日 九月一日發表の農務省の作柄報告は五割七分で前回はより一割三分八厘方悪化した。八月は毎年平均七分五厘である。然るに今週の相場は平均下つた。之は新棉が出盛つて来た爲めである。併し廿一仙内外で踏止まつた。之は實需筋が買付けた結果である。思惑屋は需要供給の大勢から考へて強氣であるが南部筋の緊賣りも多い。自十一日至十六日 今週は大休に於て低落歩調を示した。九月二十五日迄の新棉繰上高は三百萬俵を超過する豫想である。其れ故九月中は南部筋の緊賣りが出る見込である。併し棉産地から情報を見込すると最近の作柄は例年の一層悪化した模様である。自十八日至廿三日 今週の相場は反騰力に乏しい。之は従来買支へて居た紡績會社が近東の政局案じて頓に買溢つて来た爲である。本月の天候は概して晴天で棉花取入れには申分ない日和であつた。隨て本月末迄の新棉繰上高は非常に多いと見込んで居る者がある。自廿五日至三十日 今週は次第に下つて来た。之は主として新棉の出廻りが盛んな爲である。目下硬派は新棉の收穫豫想が益々悪くなつたと言つて居る。軟派は新棉の出廻りが非常に多し居る。右の如き形勢で思惑材料として居る。右の如き形勢で思惑屋は賣物を出した。棉花商や紡績會社の買物は近年稀な數量に達して居る。新棉の出廻が多いと云ふ事と近東問題が不安であること云ふ事の外は總ての材料が強氣的に解釋されて居る。隨て大勢は依然強氣である。







一九三三年十一月

米棉ミッドリング

印棉

十二月限 七月限

四五月渡

一	日(水)	二四・三五	二四・三五
二	日(木)	二四・五二	二四・五二
三	日(金)	二五・〇五	二五・〇五
四	日(土)	二五・〇七	二五・〇七
五	日(日)	二五・〇七	二五・〇七
六	日(月)	二五・〇七	二五・〇七
七	日(火)	二五・〇七	二五・〇七
八	日(水)	二五・〇七	二五・〇七
九	日(木)	二五・〇七	二五・〇七
十	日(金)	二五・〇七	二五・〇七
十一	日(土)	二五・〇七	二五・〇七
十二	日(日)	二五・〇七	二五・〇七
十三	日(月)	二五・〇七	二五・〇七
十四	日(火)	二五・〇七	二五・〇七
十五	日(水)	二五・〇七	二五・〇七
十六	日(木)	二五・〇七	二五・〇七
十七	日(金)	二五・〇七	二五・〇七
十八	日(土)	二五・〇七	二五・〇七
十九	日(日)	二五・〇七	二五・〇七
二十	日(月)	二五・〇七	二五・〇七
廿一	日(火)	二五・〇七	二五・〇七
廿二	日(水)	二五・〇七	二五・〇七
廿三	日(木)	二五・〇七	二五・〇七
廿四	日(金)	二五・〇七	二五・〇七
廿五	日(土)	二五・〇七	二五・〇七
廿六	日(日)	二五・〇七	二五・〇七
廿七	日(月)	二五・〇七	二五・〇七
廿八	日(火)	二五・〇七	二五・〇七
廿九	日(水)	二五・〇七	二五・〇七
三十	日(木)	二五・〇七	二五・〇七

十一月中の米棉情報

自一日至四日 今週の相場は益々騰貴  
 年九月以来の新高値である。南部の棉  
 産地に於ては世界の需要を満たすだけ  
 の棉花が取れない。綿布は最早動  
 好作が先頃より下火となつた。然  
 之は市場が堅實になつた事を示す  
 のである。棉花の相場は激増する  
 維持すれば。明年の植付反別は激増する  
 相違ない。

自六日十一日 過去五週間に棉花相  
 場は約五仙暴騰した。この邊で反動  
 が来る。今日まで大きな反動の増加は  
 昂騰の原因が大部分實需の増加で  
 間投機的原因が少い爲である。南部  
 紡績會社は棉花相場の安中。十分買  
 込で居る。棉花相場の安中。十分買  
 の紡績會社は棉花相場の安中。十分買  
 居ない模様である。

自十三日十八日 今週は明に反動的  
 気分を示した。之は有力な思惑屋が手  
 仕舞物を出した結果である。統計材  
 は依然強気である。今週の相場は非  
 常に買過ぎになつて居る。統計材  
 相場が今後は如何なるか。棉花  
 ものが當分の所最重大な影響を與へ  
 自二十日廿五日 今週は初めの中  
 甘五仙以上になる。直ぐ手仕舞物  
 けたが市場の配は大に少くなつた。  
 部筋の現物も非常に少くなつた。南  
 放れた爲めである。



一九三三年 十二月

米棉ミッドリング

印棉

十二月限 七月限 四五月渡

一日(金)	二五・〇八	二四・六四	四六・〇〇
二日(土)	二四・九八	二四・六一	四五・〇〇
三日(日)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
四日(月)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
五日(火)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
六日(水)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
七日(木)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
八日(金)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
九日(土)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十日(日)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十一日(月)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十二日(火)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十三日(水)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十四日(木)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十五日(金)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十六日(土)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十七日(日)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十八日(月)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
十九日(火)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十日(水)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十一日(木)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十二日(金)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十三日(土)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十四日(日)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十五日(月)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十六日(火)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十七日(水)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十八日(木)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
二十九日(金)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇
三十日(土)	二四・八八	二四・五九	四五・〇〇

十二月中の米棉情報

自四日至九日 今週の紐育棉花市場は大勢落着の態で仕手關係が平均を保つて来た。而して定期市場に於て相場が下つても手持筋は敢て賣り急ぐ風がない。之は現物の需要が増加した爲めである。

自十一日至十六日 本月十二日農務省が發表した新棉實收高は九百九十六萬四千俵で一般の豫想通り一千萬俵に達しない。然るに米國內地の紡績會社は十一月中に五十七萬八千俵の棉花を使用して居る。斯の如き事は過去二年間例のない事。此の調子では進めば明年七月迄に米國內地だけで七百一十萬七千俵の棉花を消費するだけの量である。仍つて海外に輸出し得る數量は明年八月一日に於ける持越し高は合計して六百八十二萬俵に達しない。勘定はなる。そこで益々強氣が多い。

自十八日至廿三日 今週はクリスマスが近づいたに拘らず相場は眩りして居る。之は新規の思惑屋が買屋の手仕舞物を全部消化して仕舞つたからである。本年八月一日から明年七月三十一日に至る一年間の米棉消費高は一千二百萬俵に達する見込である。然るに一方勞働者の不足と害虫の蔓延で收穫は千二百萬俵に達する事は六ヶしい。隨て思惑屋も素人筋も多額の買物を抱へて居る。

自廿五日至三十日 今週はクリスマス後であつたに拘らず相場は大に眩りで年を終へた。玄人筋も素人筋も今後の實需増加と相場騰貴を見越して居る。海外の政治經濟状態が見直して来た。棉花の需要も増加するに相違ない。



































經 濟 國 際 週 報 雜 誌

國 際 通 信 社 經 濟 部 編

國際週報 は世界の各商業  
中心地を聯結する一大通信  
網により日々當社に入電す  
る經濟電報を根幹とし世界  
經濟界の  
時事問題 や各國主要市場  
に於ける市況、相場、諸統  
計等を毎週分類的に編輯し  
たもので觀察及び數字の正  
確なる事全然他の追隨を許  
さない。  
國際商業 場裡に於て直接  
活躍せらるゝ實業家は勿論  
の事其他銀行、會社、商店  
に於ける好個の調査材料參  
考資料として是非御愛讀を  
乞ふ。

定 價 送料共 金貳拾圓  
半年分

大正十二年九月五日印刷  
大正十二年九月十日發行

大阪市東區北濱五丁目十二番地  
編纂兼 東 川 嘉 一  
發行人  
同市北區堂島裏三丁目十五番地  
印刷所 谷口印刷所



國 際 通 信 社

東京市赤坂區葵町三番地  
電話 二七三〇番

大阪市東區北濱五丁目  
電話 市局二二〇〇番

神戸市仲町十五ビルヂング  
電話 三宮一七四九番

横濱市本町一丁目  
電話 市局二四二九番

名古屋市西區上園町三丁目  
電話 市局七四六九番

京都市下京區富小路五條上ル  
電話 下五〇七九番

下關市阿彌陀寺町  
電話 一四五四番

福岡市春吉町渡邊通四丁目  
電話 一六二五番

長崎市梅香崎町乙ノ一〇  
電話 一七三一番

大連市山縣通キ區一七  
電話 一五一五番

終